# 平成 28 年度　第 2 回診断評価等基準委員会議事録

開催日時：平成 28 年 10 月 14 日（金）　8：00～9：00
開催場所：福岡サンパレス　４F　第 6 会議室

出席者：川上　守（担当理事）、紺野慎一（委員長）、寒竹　司、関口美穂、
竹内大作、橋爪　洋、福井　充
欠席者：笠井裕一、金森昌彦、細野　昇、和田英路

議題

１．JOABPEQ、JOACMEQ の適正使用と論文査読時のチェックについて
国内外で Publish されている論文で、JOABPEQ/CMEQ を適正に使用していない事例が散見される。脊椎脊髄病学会の評議員会などで、脊椎研究論文を査読する機会の多い先生にアナウンスし、適正チェックをお願いする。

２．JOABPEQ、JOACMEQ のアプリの検証
①iPad アプリの動作について、当委員会委員が使ってみて、不具合があれば速やかに報告することを確認した。
②この件に関連し、竹内委員より、最近 Google フォームというインターネットサービスを用いれば、個人が Web 上で BPEQ/CMEQ のフォームを作成し、入力すればすぐにエクセル変換することも可能になっているとの情報が提供された。インターネットに繋がってさえいればどの端末からもアクセスできるサービスなので非常に便利である反面、データが Google のサーバに残ってしまうことから、臨床データの取り扱いに関する倫理的問題が生じる可能性も指摘されている。この件について引き続き検討が必要であるとのことで出席者の意見が一致した。

３．プロジェクト研究進行状況について
①「腰椎変性側弯症の健康関連 QOL 低下に及ぼす X 線学的（脊柱変形）パラメータを検討する多施設横断研究」（担当：竹内委員）
平成 27 年度第 2 回本委員会で既にプロジェクト終了を確認したところである。（元々は JOS に投稿予定であったが、）現在 Euro Spine Journal に投稿予定である。
②「腰椎変性すべり症に対する手術治療法の有用性に対する JOABPEQ を用いた多施設前向き研究」（担当：寒竹委員）
1 年までの途中経過では除圧＋固定群と除圧のみ群の 2 群間で有意差なしの結果であった（平成 28 度第 1 回本委員会で報告ずみ）。2 年時のフォローアップが終了しているが、まだデータを提出して頂いていない研究協力施設が幾つかある。データ収集を完了させ

て解析を開始する。
③「術者によって頚髄症の手術成績（JOACMEQ）に差があるか」（担当：細野委員）
当初の目的を終え雑誌投稿予定中であることを平成 28 度第 1 回本委員会で報告ずみである。細野委員（今回欠席）に進捗状況を確認する。

４．JOABPEQ part 4、JOACMEQ part 5 の執筆状況
「20 点で有意差あり」の根拠について、BPEQ は笠井委員から論文執筆の申し出を頂いた。現在進行中である。CMEQ は和田委員が論文執筆を担当することになっているが、現時点での進捗状況を確認する。

５．JOABPEQ、JOACMEQ 偏差得点の開発の進捗状況
今年度第 1 回の当委員会にて福井委員より「偏差得点を得るためには 70 代、80 代のサンプル数をもう少し増やす必要がある（中央値が下がっている、かつデータのバラツキが大きいため）」との見解が示されていた。現在、福井委員が追加調査の必要性について検討中である。80 代のデータを少しだけでも集めると収集時期による影響を検討するためにさら多くのサンプルを集める必要があり、現実的でない。Limitation に関する注釈つきにはなるが、既存のデータでまとめようと検討しているとのことであった。

６．日本整形外科学会へのプロモーション
紺野委員長より、JOA 診断評価委員会の再開を目指し、担当理事から JOA 理事長に働きかけを行う。そのためにも JOABPEQ part 4、JOACMEQ part 5，偏差得点を完成させることが重要であるとの認識が示された。

７．プロジェクト研究へのインセンティブ
現在までのところ理事会でこの話は出ていない、川上担当理事から新理事長に確認する。

８．プロジェクト研究（JOA も含めて）のデータを蓄積して再利用する件について
①本案件は平成 28 年度第 1 回の委員会で提案されたものである。当委員会としては第 1 回委員会において全員一致で賛同したところである。橋爪委員よりデータを蓄積して再利用するためには「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 27 年 4 月 1 日施行、モニタリング・監査に関する規定については同年 10 月 1 日施行）に準拠する必要がある。過去に蓄積したデータを再利用する、あるいは今後にデータ蓄積する場合には、この点を十分に考慮する必要があるとの意見が出された（継続審議）。
②紺野委員長より、東北腰部脊柱管狭窄研究会で開発した椎間板ヘルニアの診断サポートツール論文が最近 JOS にアクセプトされたことが報告された。さらに、当委員会の役割を考慮すると、新しい診断・評価ツールの開発も行うべきであるとの提案があった。

例えば期待感と満足度の評価、重症度評価、コアシステムなどについての開発が望まれる（継続審議）。

９．その他

①川上担当理事より、新しい研究をプロジェクト委員会と共同で行えばどうか？プロジェクト委員会では新規研究案件についてメール会議する予定なので、当委員会でも情報共有させて頂くのが良いだろうとの提案があり、出席者全員の賛同を得た。

②次回：専門医試験の時（神戸：1 月 19 日か 20 日）に開催予定となった。